

**CONTENTS**

- 活動報告・各種会議議事録
- 会員動静
- 学会関連カレンダー
- 日本農薬学会第47回大会の案内（追加）
- 「農業について知ろう」ウェブサイトのご案内
- 講師派遣のご案内
- ニュースレターの電子化について

令和3年度 第3回常任評議員会議事録

日 時：令和3年9月4日(土) 12:00～14:45

方 法：Web会議

出席者：出席者14名（含第47回大会組織委員会大会委員長，実行委員長），欠席者2名

議事：

I. 令和3年度第2回常任評議員会議事録を確認した。

II. 経過報告および議案

1. 第47回大会の準備状況報告

- ・開催形式について，対面とオンラインのハイブリッドでの実施を検討していることが報告された。
- ・特別講演，シンポジウム，ランチョンセミナーについて報告があった。
- ・大会前日に常任評議員会・評議員会・編集委員会を予定しているとの説明があった。

2. 財務関係

- ・収支予算管理報告（令和3年1月1日から8月15日まで）があり，順調に進捗していると報告があった。

3. 編集委員会

- ・編集委員会活動報告があり，英文誌と和文誌の編集状況について説明があった。
- ・編集委員長の過重な負担を軽減するために，新たに和文誌編集担当の副編集委員長の役職を設定することについて議論した。
- ・令和4年度日本農薬学会論文賞受賞論文の選考経過に

ついて説明があった。

- ・非会員の投稿料の値上げについて，引き続き議論した。

4. 学術・技術支援委員会

- ・残留農薬分析セミナー（令和3年11月25日開催）の準備状況について報告があった。
- ・「農業について知ろう」ウェブサイトのリンク先の点検を担当するキュレーターについて，今後は任期を2年として依頼する予定との説明があった。
- ・同ウェブサイトの閲覧解析の結果，依然として閲覧数が少ないため，案内ポスターの更新など，周知に取り組むこととした。

5. 将来計画委員会

- ・新規の学術小集会として，農薬抵抗性研究会および農業DX研究会の設置を検討していると報告があった。
- ・一般社団法人化に向けた検討状況について報告があった。

6. 学会賞受賞者選考委員会

- ・選考経過および今後の選考スケジュールについて説明があった。

7. 農薬科学研究奨励金について

- ・令和4年度の研究奨励金の審査および交付日程について説明があった。
- ・採択された場合は，奨励金の交付後速やかに研究を開始することが必要である，との旨を募集要項に明記することとした。

8. 技術士育成推進委員会

- ・今後も引き続き，試験の予定等について情報収集・提供するとの説明があった。

9. 昆虫科学連合，植物保護科学連合

- ・日本植物保護科学連合が開催予定の「グリーンリカバリーへの植物保護科学の貢献」シンポジウムについて説明があった。
- ・本会会員も加えての昆虫科学連合が2024年に京都で開催予定の第27回国際昆虫学会議（International Congress of Entomology）を運営することについて説明があった。

10. 国際学会の渡航費補助について
 - ・新たな申請はなかったとの報告があった。
11. 公益財団法人農学会, 一般社団法人日本農学会
 - ・本学会からも日本農学賞受賞者候補を推薦することを検討中であると説明があった。
12. 研究会の後援・協賛について
 - ・第49回構造活性相関シンポジウムへの協賛について報告があった。
13. 入退会の報告
 - ・2021年7月1日～8月15日の期間における入退会の報告があり, 正会員3名の入会および正会員2名の退会が承認された。
14. その他
 - ・学会ホームページに掲載する受章の情報に関して, 学会賞および日本農学賞に加えて褒章受章などについても掲載することが確認された。
 - ・学生への就職支援となるような情報交換会の企画を, コロナ感染拡大の状況を注視しながら, 検討していくことが提案された。

令和3年度 第2回将来計画委員会議事録

日 時: 令和3年11月20日(土) 13:00~14:30

方 法: Web会議

出席者: 出席者9名, 欠席者2名

議事:

日本農薬学会の発展をめざして, 以下のことが検討された。

1. 「みどりの食料システム戦略」の中での日本農薬学会の改革・発展をめざした「未来開拓シンポジウム—新次元の構築—」を第47回大会(岡山)で開催することを合議した。
2. 編集委員会
和文誌担当の副委員長を置くことが検討された。
3. ポストコロナの日本農薬学会の方向について検討された。
 - ・オンラインミーティングの継続
 - ・会員拡大
 - ・次世代育成
 - ・談話会(大学教員, 県職員, 民間企業研究員の交流会)の開催
 - ・試験場職員も参加しやすい講習会の開催

令和3年度 第2回学術・技術支援委員会議事録

日 時: 令和3年12月18日(土) (出席14名, 欠席0名)

方 法: Web会議

議事:

学術・技術支援委員会が取り組んでいる以下の各活動に関して今年度の活動を総括し, 今後の活動方針について検討した。

1. 「農薬について知ろう」Webサイトの新規リンク先について検討した。また, Webサイト利用状況分析から, 学会HPからの流入が多いことが可視化でき, 今後も利用状況分析を継続することを確認した。
2. 「残留農薬分析知っておきたい問答あれこれ」書籍出版について, 令和4年度に作成方針を検討することとした。
3. 講師派遣の令和3年度申し込みはなかった。
4. 農薬残留分析セミナーは11月25日にオンライン開催し, 参加者は34名であった。オンライン開催に利点があり, 令和4年度もオンラインを活用した開催方法を検討することとした。
5. 学会ホームページ運営について, セミナー等案内掲載を充実させることを確認した。

第212回 常任編集委員会議事録

日 時: 令和4年1月8日(土) 15:00~16:30

場 所: 日本植物防疫協会地下1F会議室

出席者: 10名

欠席者: 2名

報告事項(高木委員長より):

- 1) JPSへの投稿, アクセス状況について
論文投稿数は2021年も例年と同程度となった。採択数は25編である。
PDFアクセス数についても順調に伸びている。
IF以外の学術雑誌の格付けについても今後注視していく必要がある。

議題:

- 1) 和文誌担当専任の副編集委員長の設置について
候補者の選定状況について報告があった。
- 2) 学会誌の表紙について
表紙図案の提示があり, 委員会での議論をもとに改良案を試作し, 次号への採用を目指すこととなった。
- 3) その他報告事項:
英文誌のReviewについては, 製剤施用法の分野で企画中である。
和文誌「各地の生産現場より」, 「ミニレビュー」, シンポジアについては予定通りの掲載作業が進行している。

令和4年度 日本農薬学会賞の決定

日本農薬学会・学会賞受賞者選考委員会で選考された奨励

賞、業績賞（技術）の授賞候補者について、評議員（会長、副会長を含む）による無記名投票を行った結果、下記の受賞者が決定された。また、編集委員会から推薦され、学会賞受賞者選考委員会で選考された論文賞候補についても評議員（会長、副会長を含む）による無記名投票を行い、受賞論文が決定された。

奨励賞

- ・近藤 圭：水田環境中農薬動態解析精密化のための数理モデリングおよびその逆解析手法に関する研究（一般財団法人残留農薬研究所）
- ・並木小百合：農薬の植物根から茎葉部への吸収・移行性に関する研究（国立研究開発法人農研機構・農業環境研究部門）

業績賞（技術）

- ・永松 敦，上田 憲，玉井龍二，谷 真樹，山本峻資：水稲用除草剤フェンキノトリオンの開発（クミアイ化学工業株式会社）

論文賞

- ・Kotaro Koiwai, Kana Morohashi, Kazue Inaba, Kana Ebihara, Hirotsu Kojima, Takayoshi Okabe, Ryunosuke Yoshino, Takatsugu Hirokawa, Taiki Nampo, Yuuta Fujikawa, Hideshi Inoue, Fumiaki Yumoto, Toshiya Senda and Ryusuke Niwa: "Non-steroidal inhibitors of Drosophila melanogaster steroidogenic glutathione S-transferase Noppera-bo," 46, 75-87 (2021)

会 員 動 静

（令和3年8月16日～令和3年11月15日）

入会

正会員

山本 峻資 谷 真樹 永松 敦 上田 憲
杉浦 智子 宮内 博史 阿久津 優 光寺 弘匡
吉田 慎一 小賀 吉昭 鈴木 和子 渡辺 和典
合田菜な未

学生会員

鏡 匠悟 梁 晗 馬場 健司 喜久里 貢

海外会員

SRUJANA, Medithi

海外学生会員

温 皓然
（受付順）

退会

正会員

阿達 弘之 荒川 正人 藤田 文雄 藤田 茂樹
岩田 淳 河西 史人 武田 敏幸 渡辺 克二
吉田 充 永野 栄喜 上原 正浩 彦坂 政志
吉田真祐美 秋吉 信行 渡邊美奈恵 岡部 諒太
西行 優子

学生会員

末吉 歩夢 村田 和也 大沼 彩香

学会関連カレンダー

太字は日本農薬学会が主催，共催，協賛，後援する会議等

2022年

3月

7日(月)～9日(水) **日本農薬学会第47回大会**

主 催：日本農薬学会

会 場：オンライン開催

URL：http://pssj2.jp/congresses/47/taikai47.html



10日(木) **第21回農薬バイオサイエンス研究会（第47回大会と共催）**

主 催：日本農薬学会，農薬バイオサイエンス研究会

会 場：オンライン開催

URL：http://pssj2.jp/congresses/47/taikai47.html



20日(日)～22日(火) **第66回日本応用動物昆虫学会大会**

主 催：日本応用動物昆虫学会

会 場：オンライン開催

URL：https://confit.atlas.jp/guide/event/odokon66/top



27日(日)～29日(火) **令和4年度日本植物病理学会大会**

主 催：日本植物病理学会

会 場：オンライン開催

URL：https://www.ppsj2022.jp



30日(水) **第31回 殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム**

主 催：日本植物病理学会

会 場：オンライン開催

URL：http://www.taiseikin.jp/symposium/



4月

22日(金) 農業生物活性研究会 第39回シンポジウム(オンライン)

主催：日本農業学会，農業生物活性研究会

会場：オンライン開催

URL：準備中

9月

29日(木)～30日(金) 第39回農業環境科学研究会

主催：日本農業学会，農業環境科学研究会

会場：岐阜市文化センター [〒500-8842 岐阜県金町5丁目7-2]

エクスカージョン：未定

11月

11日(金) 第36回農業デザイン研究会

主催：日本農業学会，農業デザイン研究会

開催：オンライン

URL：<http://pssj2.jp/committee/design.html>



24日(木)～25日(金) 第45回農業残留分析研究会

主催：日本農業学会，農業残留分析研究会

会場：かがわ国際会議場 [〒760-0019 香川

県高松市サンポート2番1号 高松シンボルタワー 6F(タワー棟)]

情報交換会：未定

エクスカージョン：計画中

URL：<http://pssj2.jp/committee/residue.html>



日本農薬学会第47回大会の案内（追加）

開催方法：

➤ 3月7日：総会，授賞式，受賞講演，特別講演，企業・団体セミナー

新型コロナウイルス疾患の感染再拡大のため，当初予定を変更しオンライン開催とします。

➤ 3月8日～9日：一般講演，シンポジウム，企業・団体セミナー

オンライン開催。

特別講演（7日）：

①菅誠治（岡山大学）：「活性・反応性にこだわった有機合成」

②宮竹貴久（岡山大学）：「昆虫の死にまねを科学する」

レギュラトリーサイエンス講演（7日）：

内田又左衛門（農薬学会顧問，農薬用マスク・保護具研究会）：「農薬の安全性と科学の不定性」

シンポジウム（9日）：

①「持続可能な食料システムに資する抵抗性誘導関連技術」

オーガナイザー：能年義輝（岡山大）・鳴坂義弘（岡山生物研）

1. 抵抗性誘導効果を有する環状ペプチド：渡邊 恵¹・守屋綾子¹・香西雄介¹・山中由理恵¹・木村麻美子¹・Mai M. A. Abdelghany¹・庄司直史²・金 亨振²・斉藤太香雄²・北松瑞生³・能年義輝¹（¹岡山大院環境生命・²三洋化成工業（株）・³近畿大理工）
2. ナノファイバー化技術を用いた未利用資源の農業分野での利活用：高木桃子・上中弘典（鳥取大）
3. 農業資材としての希少糖D-プシコース（D-アルロース）・D-アロースの可能性：望月 進・何森 健・秋光和也（香川大）
4. 抵抗性誘導剤を内包したナノ粒子の開発：北川隆啓¹・飛永恭兵¹・山口賢人¹・斉藤太香雄¹・吉岡博文²・鳴坂義弘³（¹三洋化成工業・²名古屋大・³岡山生物研）
5. バイオスティミュラントはどのように植物保護に貢献できるか？：鳴坂真理・鳴坂義弘（岡山生物研）
6. プロヒドロジャスモン液剤によるアザミウマ忌避とその忌避メカニズムの探究：安部 洋¹，佐藤心郎²・佐藤諒一²・平井優美²・大矢武志³・松浦昌平⁴・富高保弘⁵・腰山雅巳⁶・櫻井民人⁵・小林正智¹（¹理研BRC・²理研CSRS・³神奈川農技セ・⁴広島総技研・⁵農研機構植防研・⁶日本ゼオン）

②「生物生態から制御剤まで」

オーガナイザー：太田広人・清田洋正（第21回農薬バイオサイエンス研究会と共催）

1. 植物の自己損傷感知による昆虫食害認識機構：新屋友規（岡山大）
2. 昆虫の防御応答から迫るバキュロウイルスの宿主決定メカニズム：浜島りな（名古屋大）
3. 植物寄生性線虫の生活史研究から新たな防除法を探る：新屋良治（明治大）
4. 炭酸カルシウム水和剤のモモシクイガ産卵抑制メカニズムの解明：吉永直子（京都大）
5. 昆虫生育制御剤のサイエンス：過去～現在～未来：中川好秋（京都大）

③「未来開拓シンポジウム—新次元の構築に向けて—」

オーガナイザー：日本農薬学会将来計画委員会

✓ 第1部 次世代植物保護と抵抗性（座長 山本敦司）

1. NGSの活用による殺虫剤抵抗性メカニズムの解明と今後の展望：上樂明也（農研機構）
2. 微生物が繰り広げる多次元ケミカルコミュニケーション：甲斐建次（大阪府大）
3. 植物ホルモンによる植物保護の新展開：中村英光（東京大）

✓ 第2部 農業デジタルトランスフォーメーション（座長 松田一彦）

1. AIを活用した化合物設計：三澤大太郎（SyntheticGestalt）
2. ゲノム・遺伝子改変に向けたAI協働研究：赤木剛士（岡山大）
3. みどりの食料システム戦略の実現に向けて～スマート農業等による生産性向上と持続性の両立～：松本賢英（農林水産省）

企業・団体セミナー：

L1：農薬工業会（7日）

- ・みどりの食料システム戦略実現に向けて（植物防疫の立場からの提言）～特に化学農薬の使用量（リスク換算）低減に関連して～：早川泰弘（日本植物防疫協会理事長）

L2：キシダ化学（株）（8日）

- ・医薬品業界におけるクロマトグラフィー工程の重要性：三輪勝彦（（株）ChromaJean代表取締役社長CEO）

L3：Charles River（8日）

- ・The *in vitro* Dermal Absorption Assessment of Agrochemical Formulations:
Frank Toner BSc MRSB (Associate Director, In Vitro Dermal Services, Charles River Edinburgh)
- ・Conduct of Agrochemical Metabolism and Residue Studies in Fish: Simon Chapleo, PhD
(Director, Crop Metabolism & Field Residues, Charles River Edinburgh)

L4：LANDIS International, Inc.（世話人企業：LANDIS International, Japan 合同会社）（9日）

- ・2022 Update on EPA Regulatory Activities and Endangered Species Act—2022 米国EPAの規制措置と絶滅危惧種法に関する最新情報—

L5：Pharmaron UK, Ltd（世話人企業：ビオブリッジ（株））（9日）

- ・Registration of Plant Protection Products in Europe. EFSA Guidance on Environmental Fate and Metabolism: Recent Changes and How to Meet Them（欧州農薬登録における環境中動態評価に関するガイドラインの最近の変更点と対応について）：Mark Simmonds, Kathryn Webbley and Michael Hall（Pharmaron UK Ltd.）

大会 URL：<https://service.dynacom.jp/acpartner/meeting/home/pssj/taikai47/index.html>



「農薬について知ろう」ウェブサイトのご案内

日本農薬学会は学会ウェブサイト内に「農薬について知ろう」というサイトを開設しています。このサイトでは、農薬に関する理解を助けるため行政や公的機関などの情報を中心に紹介しています。

食品の安全に対する関心が高い中、家庭や学校など日常生活の中で農薬が話題となる機会も多いですが、関連する情報は散在しており、知りたい情報にたどり着くのに苦労することも少なくありません。そこで農薬のことを十分に理解するための多方面の情報を一元的かつ簡単に検索でき、食の安全や健康影響、環境影響などを考える際に利用できるポータルサイトとして運営しています。

このサイトでは、情報を必要としている方々に応じて小学生、一般の方、先生、農業・流通業関係者の4つのグループに分けて情報が整理されています。また、小学生向けには漢字にルビを振るとともに、分かりやすい情報サイトを選び紹介しています。さらに、情報は「規制」、「安全性」、「薬剤」、「環境・残留」、「農業」のカテゴリー別に分類されています。「規制」は農薬の登録や管理に係る法律、試験方法、農薬残留基準、食品の輸出入など、「安全性」は毒性、安全性、健康影響、リスク評価やリスク管理の考え方、「薬剤」は農薬の種類や特徴、農薬の使用法、「環境・残留」は農薬の残留、環境中の分解、環境生物への影響など、「農業」は効果、薬害、防除、農法などについて整理されています。また、キーワードからカテゴリーごと、あるいは、50音別・アルファベット順別に縦横に検索できる機能も備えています。農薬に直接関わらない子供たちや一般の方々に向けてだけでなく、農薬や農業の専門家の方々にも十分役立つような情報を収録する工夫がされています。

今後も新しい規制や技術、知見など収録情報の追加や更新を継続していきます。皆様にご活用いただけますようお願いいたします。

日本農薬学会のトップページや下記のアドレスからご覧ください。

<http://pssj2.jp/rikai/index.shtml>



講師派遣のご案内

日本農薬学会では、一般市民や農業、教育関係の方々に農薬に関する知識や食料生産、食品安全、環境影響などに関する理解を深めていただくことを目的として、専門家を講師として派遣しています。派遣講師が行う講義の内容は、ご要望にできる限り沿うようにしたいと考えておりますので、遠慮なくご相談ください。本活動にご興味がありましたら、学会ホームページ (http://pssj2.jp/overview/semina/haken_16.html) をご参照のうえ、日本農薬学会事務局にご連絡ください。



ニュースレターの電子化について

日本農薬学会ニュースレター（PSSJ News Letter）は、これまでは印刷物を学会誌の冊子体に同封して送付しておりました。この度、学会誌オンライン化に伴い、ニュースレターも電子ファイルの配付のみという形に変更させていただきます。ご了承の程、よろしくお願いいたします。

日本農薬学会ウェブサイトにて、バックナンバーをご覧いただけます（会員限定）。

<http://pssj2.jp/inside/newsletter.html>



発行所：日本農薬学会

〒114-0015 東京都北区中里2-28-10

一般社団法人日本植物防疫協会内

FAX: 03 (5980) 0282

E-mail: nouyaku@pssj2.jp